

総務企画部の方針書

部 名	総務企画部
部長名	村田 清和

1. 部の使命(ありたい姿)

政策推進のための全体調整役としての使命を全うし、『幸せな地域社会』を実現する。	
担当政策	政策7:横手を思い、市民の想いを実現させる創造的な行政経営を進めます
担当施策	3-3:災害に強いまちづくりの推進 5-3:市民が利用しやすい公共交通の充実 6-3:情報を共有する環境の整備 7-1:住民ニーズに対応した成果重視の行政運営の確立 7-3:戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実

2. 部の抱える課題(現状)

<ul style="list-style-type: none"> ・市政運営の根幹となる計画の策定年度である。国勢調査の実施年度である。 ・合理的で夢のある新規大型施設の計画決定 ・戦略的・計画的な人員・人材の配置・育成、能力開発の実施と行政経営マネジメントの推進(行政評価、業務外部化) ・多様なツールを有効活用した情報発信・情報戦略の実現(Society5.0の視点) ・災害への予防的対応と実践的対応
--

3. 今年度の『スローガン』

<p>◇ 戦略的思考を持って柔軟に取り組む「チーム」であるべし！</p> <p>◇ 『もの』は三つの目で見ると！ 鷹の目(マクロ)、蟻の目(ミクロ)、魚の目(トレンド)</p>
--

4. 今年度の方針

<p>◇ 将来への転換点となる年度であることを意識した仕事をする。【再生の年 2019・2020】</p> <p>◇ 横手市役所の総合力向上のため、的確かつ効果的な後方支援を行う。【全庁マネジメント】</p>
--

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	新しい横手市、次の横手市、のプランを策定&スタートさせる
	取組内容	◇「第2次横手市総合計画後期計画」「第2次総合戦略」「第3次定員適正化計画」の策定 → SDG's、Society5.0 目線、「国勢調査」の実施 ◇新規施設の合意形成とプランニング → 駅東口公益施設、多目的総合施設、市民ホール、十文字エリア他 ◇計画主導による政策実施の継続とチェック → 行政評価システム、事業スクラップの検討と推進
(2)	実現したい成果	組織力が向上し事象に対し具体的対応が出来る
	取組内容	◇戦略的・計画的な人員配置・人材育成・能力開発の実施 → 行革視点による人員・人材配置の分離 ◇ICT、IOTを踏まえた業務効率化とアウトソーシング業務の具体化 ◇危機管理体制・対応の強化 → 国土強靱化地域計画策定、防災訓練 ◇組織形態の継続検討
(3)	実現したい成果	明確な意図を持って情報を取り扱うことが出来る
	取組内容	◇情報戦略の再構築、情報発信方法・手段・内容の再構築 → Society5.0目線、HP再構築、アプリの検討 ◇全庁的な情報リテラシーの向上 → 内部研修の実施 ◇情報取得方法の再検討 → 国・県からの情報、補助金・交付金・新制度等の情報取得

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- ・重点取組(1): 国勢調査及び各種計画策定については概ね順調に進捗してきている。市民検討委員会、アドバイザー要請の提案、サウンディングの準備等、施設案件についても上半期は多少の遅れ感はあるものの概ね順調に推移した。
- ・重点取組(2): 危機管理・強靱化計画については順調に進捗した。行革に係る部分(人員人財に関する事、アウトソーシングに関する事、組織検討、等)については、上期は今一步というところ。継続して取り組みが必要と考える。
- ・重点取組(3): 取り組みは進めているが明確な形としては未だ現れてはいない。下期に向けて継続して取り組み相応の結果を見出したいと考えている。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- ・この度の計画策定については、経過もさることながら「最終のまとめ」と「内容に対する合理的説明」が重要となる。現状を加味しながらも将来に向けての市の姿勢が問われるものである。そのような意味において、これら計画は年度末に向けてしっかりと進めたい。
- ・施設案件については、下期に向けて公表する案をまとめる必要がある。費用及び財源との連動についての説明も必要である。関係部署と十分に連携しつつ進めていくこととする。
- ・行革関連、情報関連については、案件を継続しつつ一定の形・結果を見出せるよう取り組んでいく。簡単に結果が出るものではないし、安直な手法に飛びつくような真似もすべきではないが、何かしらの前進が必要ではある。しっかり考えて進めたい。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- ・『将来への転換点となる年度』という意味合いにおいて、総務企画部全体がそれを意識して進んでこれたと言える。様々な計画、構想、新型コロナ対応施策等内容は多岐に渡ったが、将来へつながる形を作ることが出来たと考えている。
- ・計画策定／それぞれのチェックポイントをクリアするのに時間が掛かった感はあるが、年度内完成を達成できた。将来的な視点についても、新たな要素を加えつつ策定できているし市が目指す方向・目標を示すことが出来たと考える。
- ・施設案件／東口新公益施設の具体化について、アドバイザーを入れた効果がVEという形ではっきり表れている。この成果は大きな意味がある。大型施設構想策定については、市民検討委員会の意見、議会の意見等を組み入れながら、規模・位置・施設構成等を整理し構想にまとめることが出来た。次年度、基本計画を策定する中で各方面の理解を得つつ具体化させることが出来るよう継続して取り組む必要がある。
- ・行革関連、情報関連／HP再構築の準備は着々と進んでいる。新HPに向けて継続して取り組む。新しい行財政改革推進アクションプランを策定した。難しい側面もあるが積極的に取り組んでいく必要を感じる。